

県内経済動向調査結果(平成21年3月分)

平成21年5月11日

産業経済政策課

概 況

県内経済は、製造業で生産の減少が続いており、総じて厳しい状況となっている。

主な業種	状 況
製 造 業	全体的に大幅な減産が続いている 生産額、受注額はそれぞれ前年同月比43.3%減、同42.2%減となった。3か月先の業況見通しDIは 14.8から 4.9となった。
建 設 業	業界全体で厳しい状況が続いている 受注額、完工高はそれぞれ前年同月比15.9%減、同8.5%増となった。3か月先の業況見通しDIは 33.3から 53.3となった。
小 売 業	引き続き弱い動きとなっている 売上高は前年同月比で1.1%増、3か月先の業況見通しDIは 50.0と変わらない。
サービス業	運輸業や旅館・ホテルを中心に低調となっている 売上高は前年同月比13.1%減、3か月先の業況見通しDIは4.2から0.0となった。

製造業の動向

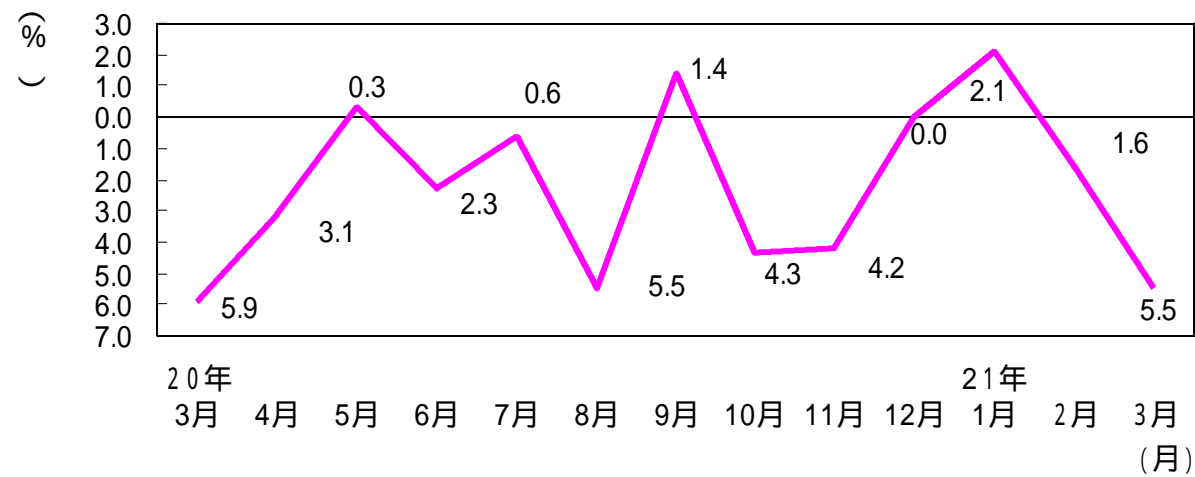
1 食料品

弱い動きが続く

生産額は前年同月比5.5%減。3か月先の業況見通しDIは 35.7から 42.9となった。

酒類では、前年比13.4%減となっており、消費者の嗜好の多様化による日本酒離れや経済状況の悪化により生産額の減少傾向が続いている。特に飲食店向けが伸び悩み、なかなか上昇の兆しが見えてこない。菓子類では景気の悪化による節約傾向が見られ、前年比微減となっている。ゴールデンウィーク期間に観光地での土産物での需要増に期待を寄せている企業が多い。

食料品生産額前年同月比



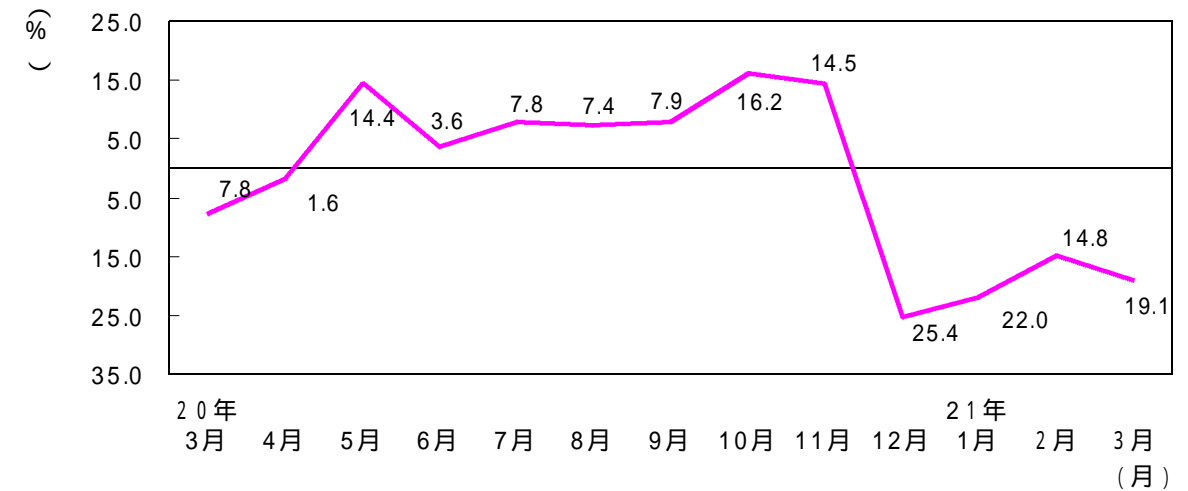
2 繊維・衣服

低調な生産活動が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比19.1%減、同5.8%減。3か月先の業況見通しDIは 66.7から 83.3となった。

景気悪化による消費の冷え込みで、低調な生産活動が続いている。衣料市場において低価格帯の商品に注目が集まっている中で、百貨店での売上が悪化しているほか、商品の値下げを実施している企業もあり、今後も厳しい状況が続くとみている企業が多い。

繊維・衣服生産額前年同月比



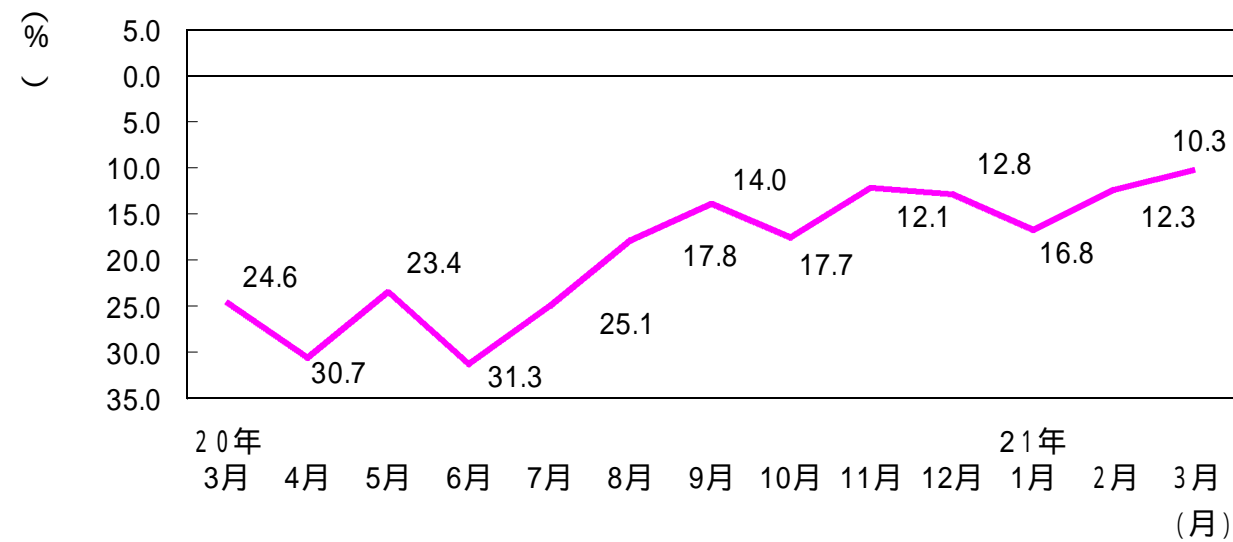
3 木材・木製品

19ヵ月連続マイナス、厳しい状況が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比10.3%減、同11.2%減。3か月先の業況見通しDIは 18.2から8.3となった。

国内景気の悪化に伴い全国的に住宅市況が低迷していることから、総じて合板、集成材、一般製材で低調な生産活動が続いている。生産調整のため一部工場の操業停止や休業による雇用調整を行っている企業もあり、依然として厳しい状況が続いている。

木材・木製品生産額前年同月比



4 鉄鋼・金属製品

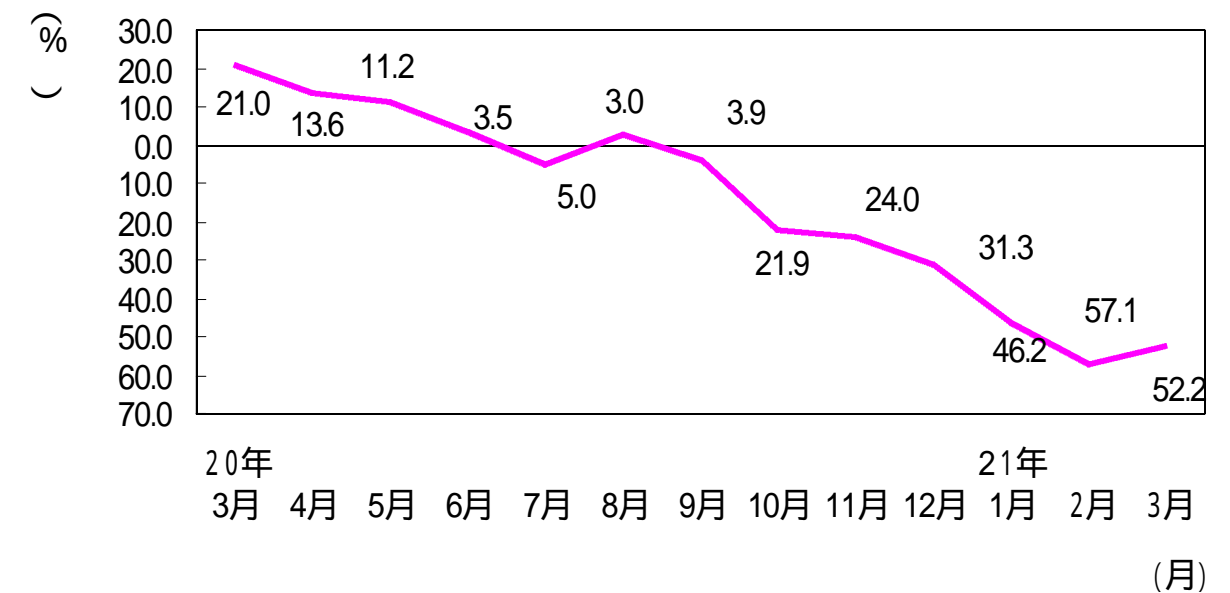
引き続き悪化している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比52.2%減、同36.4%減。3か月先の業況見通しDIは20.0から10.0となった。

電気機械関係では、パソコンや携帯電話といったIT機器部品関連で生産額が前年比7割以上の減少となる企業も見受けられ、建具関係では、前年比6割以上の減産となっており、大変厳しい状況となっている。

また、一斉休業による生産調整を行っている企業や、期間従業員の雇い止めを行っている企業もある。

鉄鋼・金属生産額前年同月比



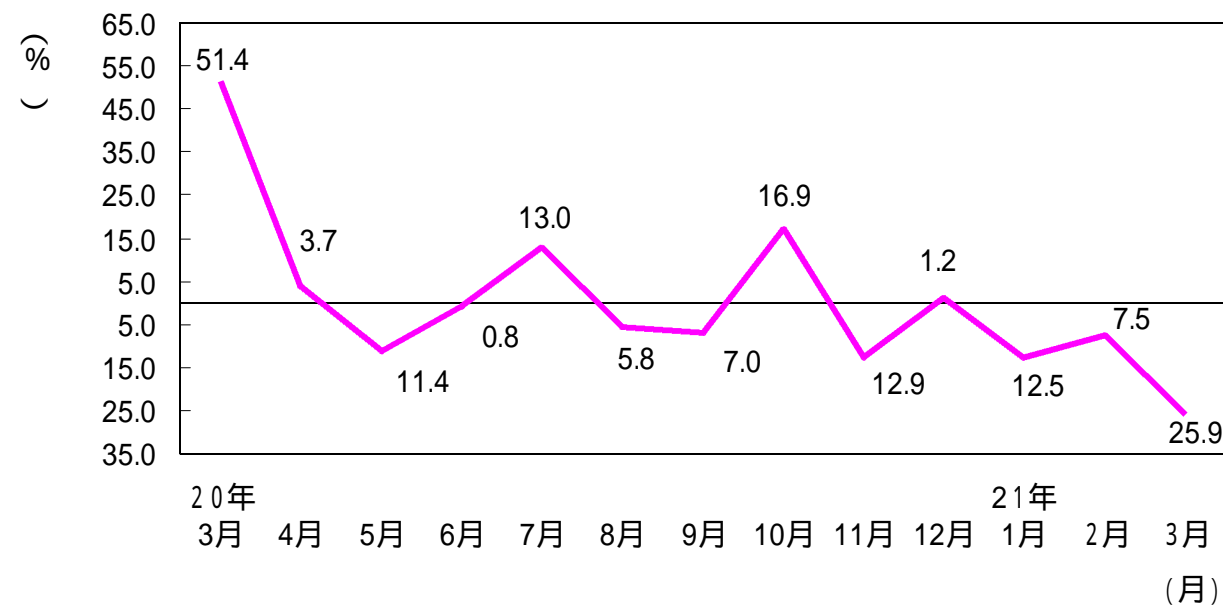
5 一般機械

悪化している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比25.9%減、同0.9%減。3か月先の業況見通しDIは 57.1から 42.9となった。

プラント設備関連では、一部県外公共工事やエネルギー関係など大口案件の受注により増産している企業も見受けられるが、一般産業機械では、自動車業界の冷え込みなどの影響を受け生産が減少しており、総じてみると悪化している。

一般機械生産額前年同月比



6 電気機械

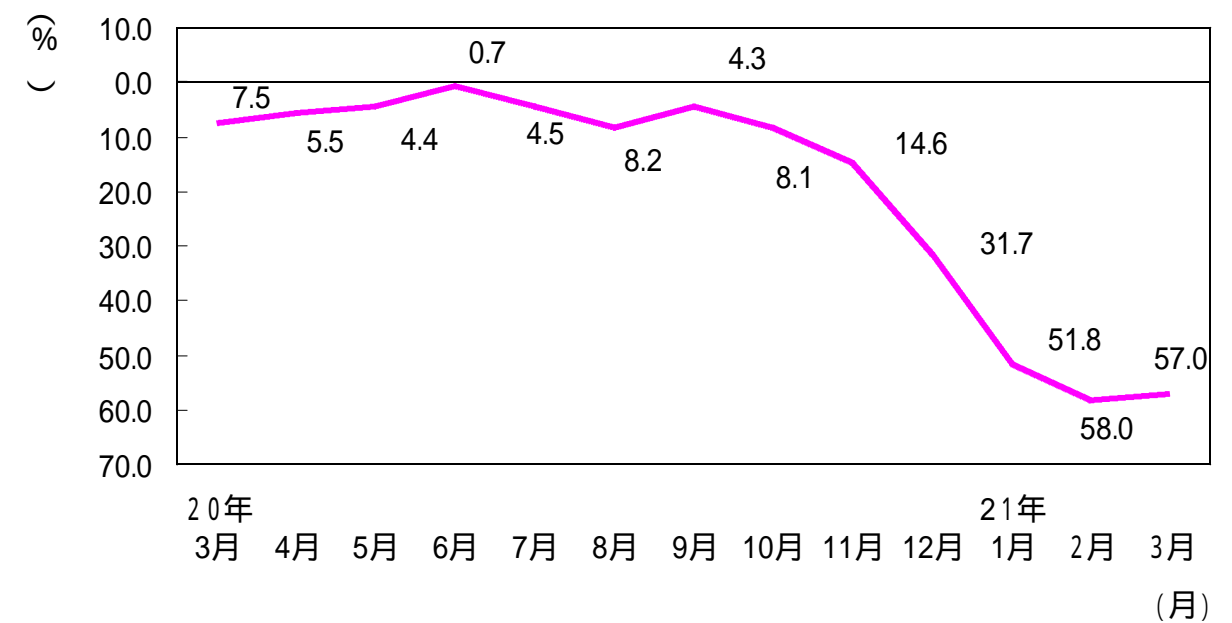
引き続き悪化している

生産額、受注額は、それぞれ前年同月比57.0%減、同57.4%減。3か月先の業況見通しDIは16.7から33.3となった。

基板では、一部で好調となっており、増産している企業も見受けられる。しかし、コンデンサーや半導体などで受注減が続いており、総じて見ると、前年同月比で5割を超える減産となっている。

生産調整や雇用調整のため、休業日を設けたり、ワークシェアリングを実施する企業があるほか、非正規社員の雇い止めが行われている企業もある。

電気機械生産額前年同月比



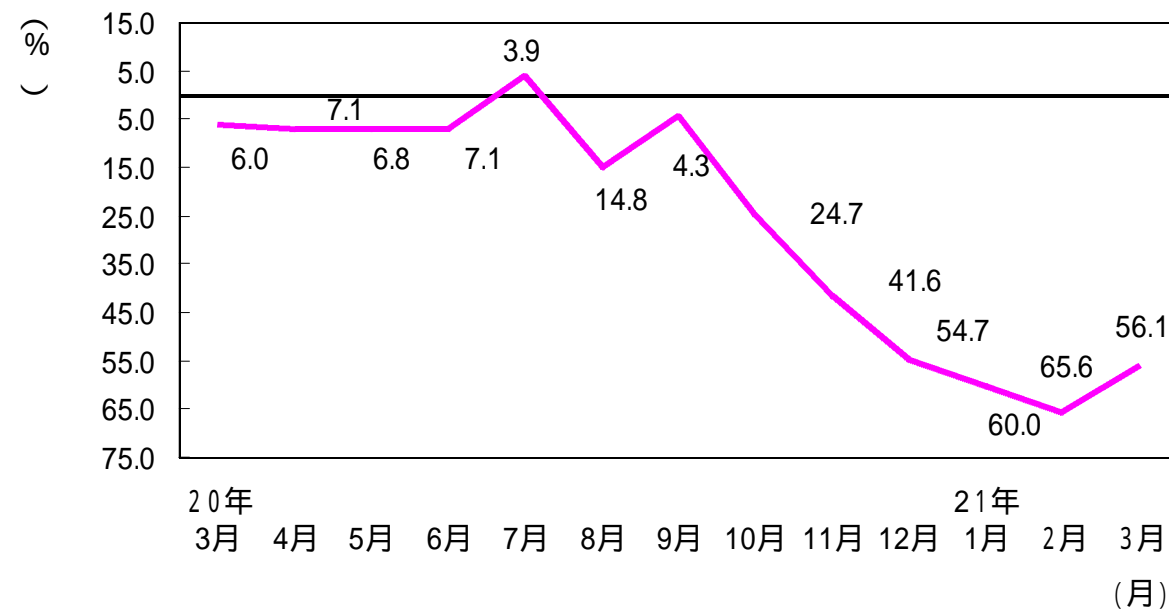
7 輸送機械

大幅な減産続き、悪化している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比56.1%減、同54.7%増。3か月先の業況見通しDIは0.0から28.6となった。

自動車の販売不振から品目にかかわらず5割弱～7割の大幅な減産となっており、総じて見ると4ヵ月連続で5割超の大幅な減産となった。多くの企業で休業日を設けて対応している。

輸送機械生産額前年同月比



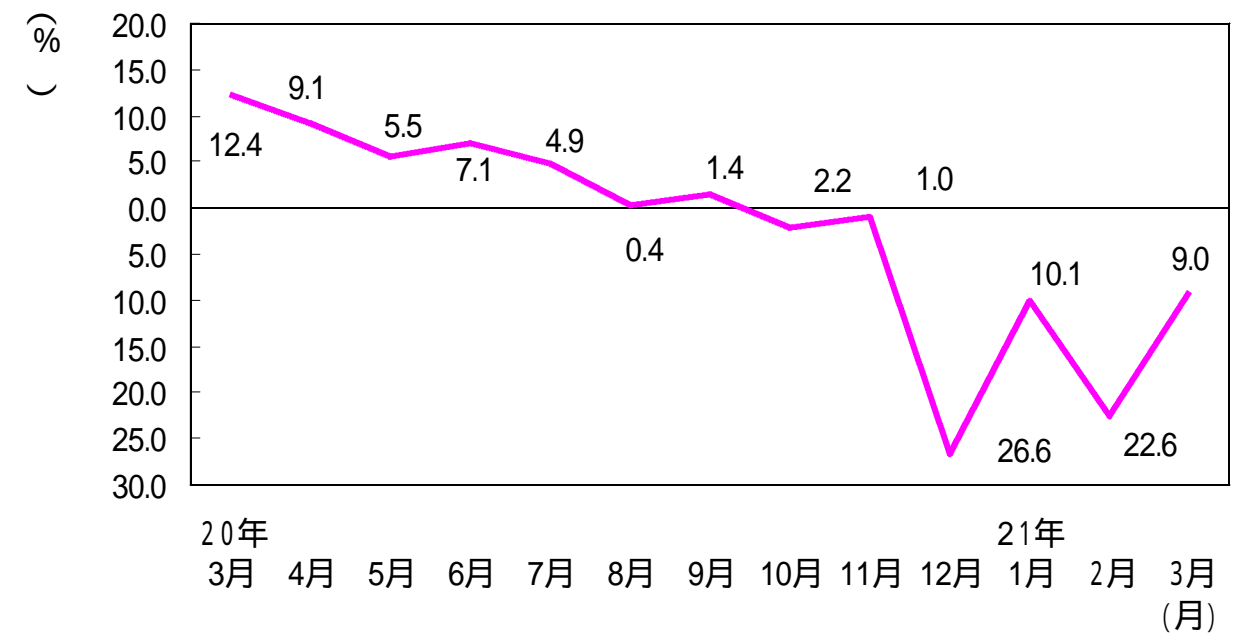
8 精密機械

低迷している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比9.0%減、同0.6%増。3か月先の業況見通しDIは 25.0から0.0となった。

光学部品、光ファイバー関連、計量関連などで、生産は低迷しているものの、医療部品で決算期による駆け込み需要での特需も見受けられた。この間、臨時休業日を設けたり、工場の稼働日の制限による生産調整を行っている企業が見受けられる。

精密機械生産額前年同月比



建設業の動向

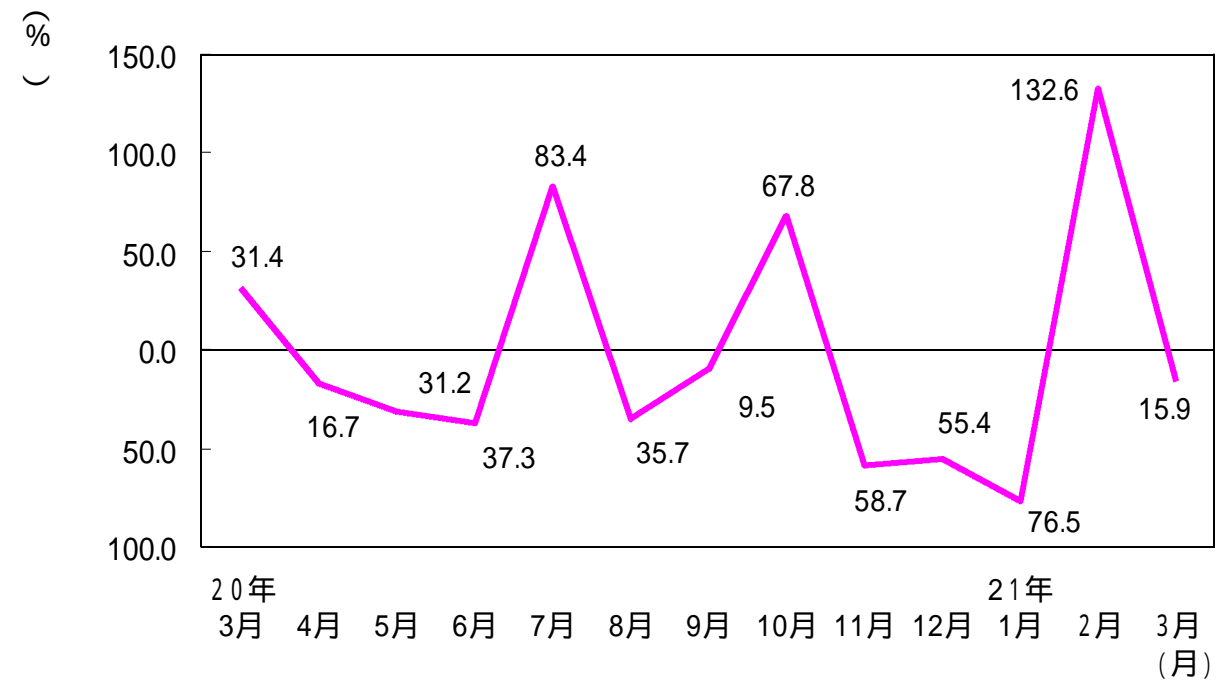
建設業

厳しい状況が続く

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比15.9%減、同8.5%増。3か月先の業況見通しDIは 33.3から 53.3となった。

経済対策としての公共工事の前倒し発注等により一時的に受注額のマイナス幅は小さくなっているものの、受注競争も激化しており、大口工事は県外業者が落札することも多いなど、業界全体として厳しい状況は続いている。

建設業受注額前年同月比



小売業の動向

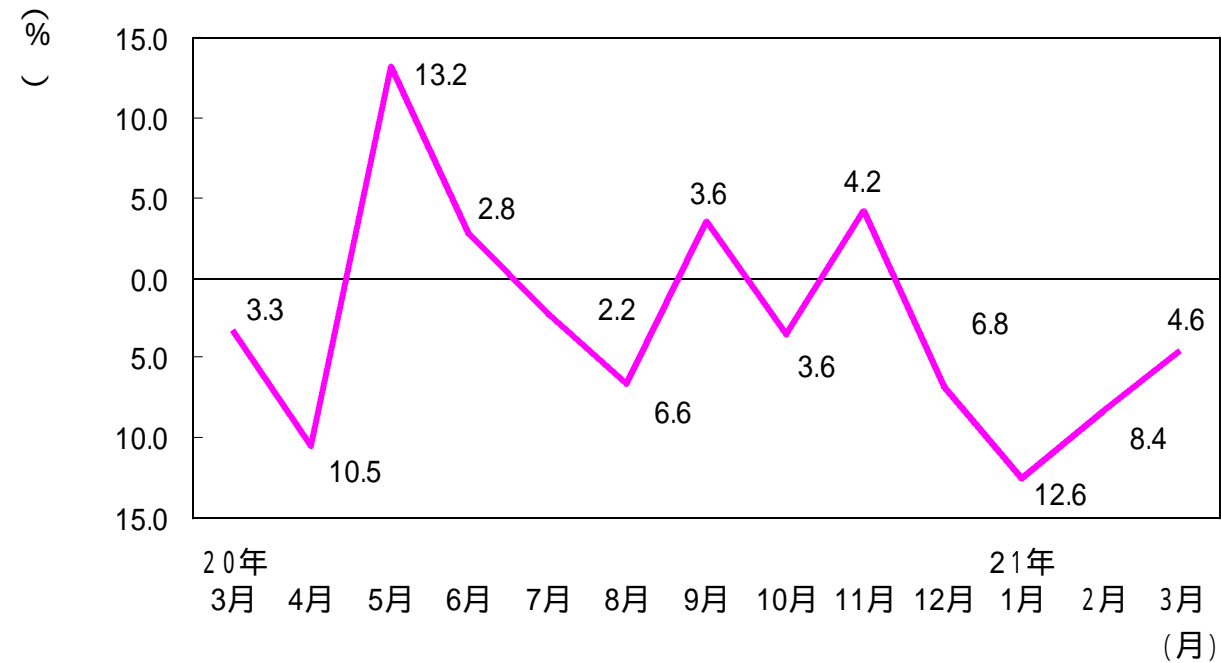
1 衣料品

低調な売上が続く

売上高は前年同月比4.6%減。3か月先の業況見通しDIは 60.0と変わらない。

例年、新入学、新社会人用の衣料の需要が高まる時期であり、新入学者用の衣料が順調で売上高を伸ばした企業もある一方で、新社会人用のスーツ等は年々売上が減少してきており、全体として低調な売上が続いている。

衣料品売上高前年同月比



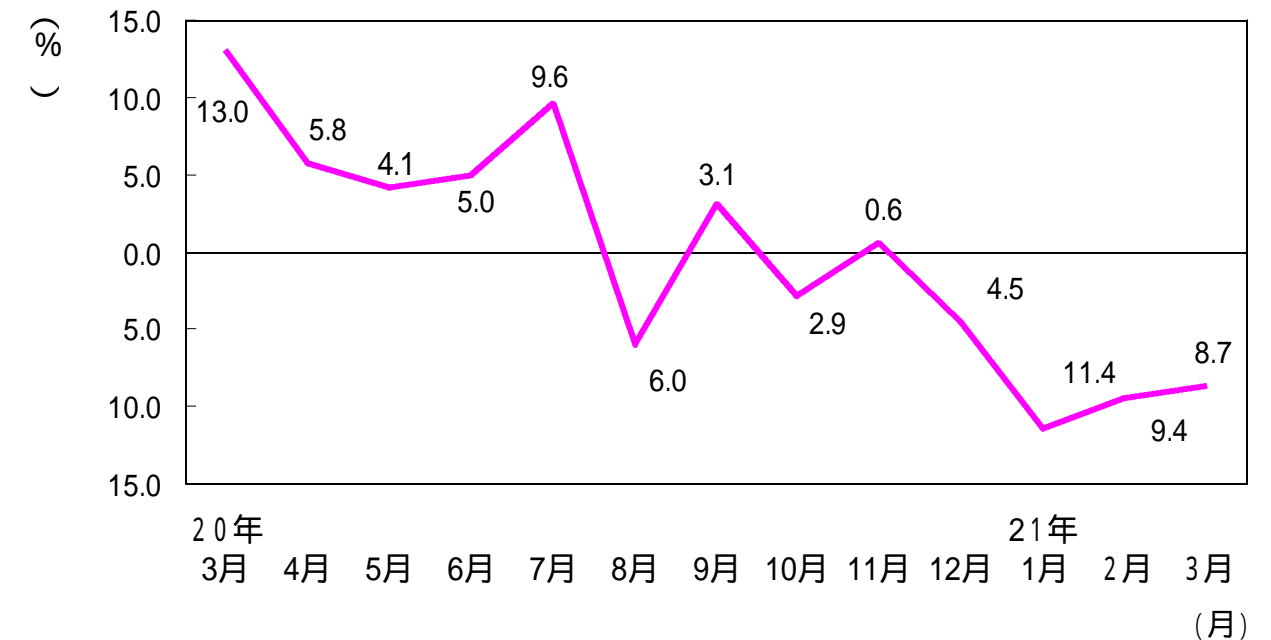
2 身回品

売上の落ち込みが続く

売上高は前年同月比8.7%減。3か月先の業況見通しDIは 50.0と変わらない。

天候不順により、園芸用品で売上が落ち込み、新生活用品の売上も芳しくないものであった。日用品についても特売品は売れるものの、特売品以外については売上が伸びず、必要最低限のものしか購入しないといった、消費者の節約志向が続いている。

身回品売上高前年同月比



3 飲食料品

底堅い売上が続く

売上高は前年同月比2.9%増。3か月先の業況見通しDIは 55.6から 60.0となった。

内食傾向が強まっていることや一部セールの影響もあり、飲食料品全体で見ると底堅い売上が続いている。

一方で、仕入れ価格の高騰が続いていることや競合店との競争激化により商品価格を下げ、収益性の悪化している企業も見受けられる。

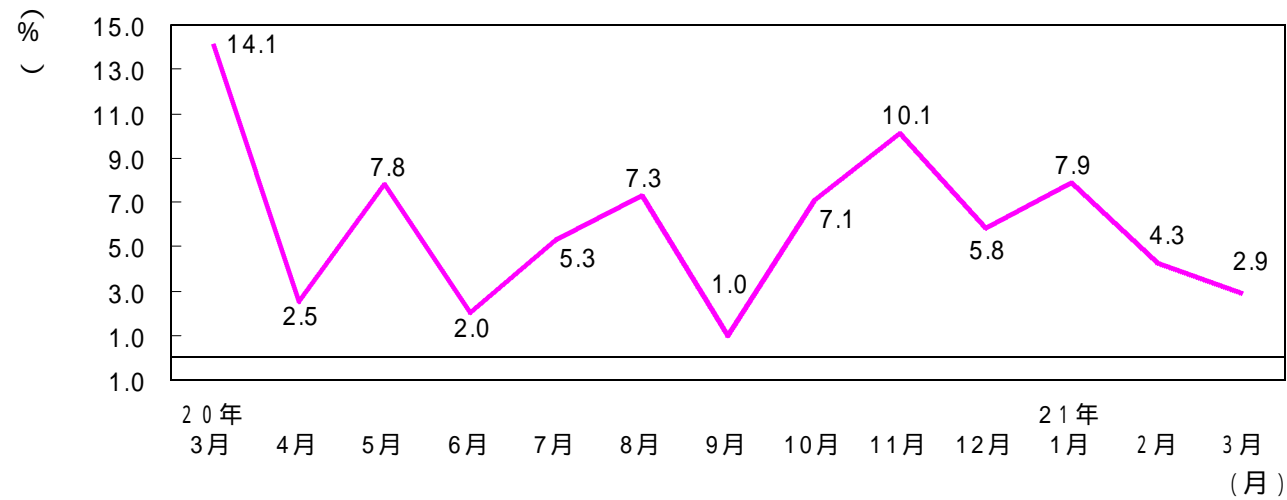
4 家電品

底堅い動きとなっている

売上高は前年同月比1.7%減。3か月先の業況見通しDIは 20.0と変わらない。

薄型テレビ、冷蔵庫、洗濯機の売上は堅調に推移している。パソコンは価格が下落しており、販売台数で伸びても売上額では伸び悩む傾向となっている。総じてみると、前年同月比でマイナスとなっているものの底堅い動きとなっている。

飲食料品売上高前年同月比



家電品売上高前年同月比



サービス業の動向

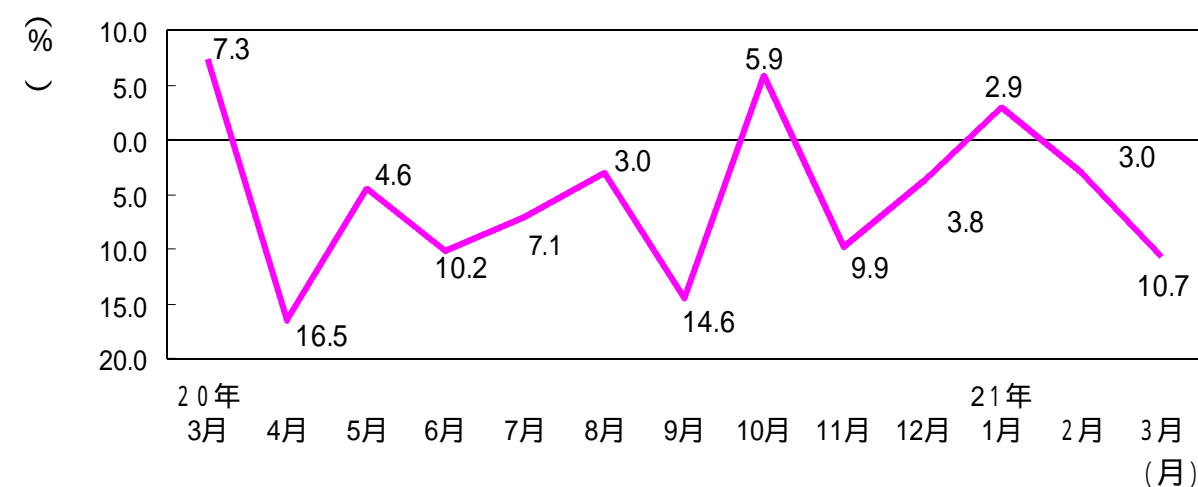
1 旅館・ホテル

厳しい状況が続く

売上高は前年同月比10.7%減。3か月先の業況見通しDIは0.0から7.7となった。

送別会シーズンという季節的要因により、宿泊部門や宴会部門で売上を伸ばしている企業も見受けられるものの、総じてみると、宿泊部門、婚礼部門、宴会部門とも低調な動きとなっている。ETC利用による高速道料金の値下げやゴールデンウィークでの集客に期待が寄せられている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



2 その他サービス

運輸業で低調となっている

売上高は前年同月比15.3%減。3か月先の業況見通しDIは10.0から 10.0となった。

道の駅ではレストラン、物産部門を中心に好調を維持している企業も見受けられる。

運輸業では、景気悪化によるタクシー客の減少が顕著に現れているほか、貨物部門で売上額の落ち込みに伴い、車両台数を縮小した企業もある。運輸業全体の売上高は前年約2割減と、低調となっている。

保険では、弱含み基調が続いている。

その他サービス売上高前年同月比

